

令和6年度
北海道教育大学
附属函館幼稚園だより
NO. 2【号】



数のはなし

北海道教育大学附属函館幼稚園長 五十嵐 靖夫

つなげたブロックを園児が一生懸命数えていました。「いち、にい、さん・・・」「あれっ？ いち、にい、さん、し・・・」途中で数とブロックが対応しなかったようで、もう一度最初から数えなおしていました。何度も数えなおす姿がとても可愛いのです。

数には2つの性質があります。ひとつは数が順番を表す序数性で、もうひとつは数が量を表す基数性です。子どもは、お父さんやお母さん、幼稚園の先生方が教えてくれたことや、遊びを通して数の序数性と基数性を学んでいきます。お風呂の湯船の中で「10 まで数えたらあがろうね」という経験は、数の序数性を学ぶ機会です。2枚のお皿の上にあるクッキーを比べて「こっちの方が多いよ」とわかるのは、数の基数性を理解しているからです。

この数の2つの性質は、必ずしも同時に理解できるようになるわけではありません。たとえば 10 まで数えられるようになった子どもに5個のりんごを見せて、「何個あるかな？」と聞いてもわからない場合があります。序数性は理解していても基数性が理解できていない例です。こういう場合、「数えられるのにどうして個数がわからないの」と考えないでください。子どもはまだ基数性を理解する途中なのです。無理に教えるのもお薦めしません。ブロックを一生懸命数えていた子どものように、遊びの中で体験を通して学ぶことが大切です。これからも附属函館幼稚園では、遊びの中で楽しく学ぶ、自ら学ぶ、体験を通して学ぶことを大切にしていきたいと思えます。